

ゆうあい通信 第406

2026年(R8)1月1日

発行所 石井記念友愛園

〒884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木644番地1

☎0983-32-2025 E-mail yuuaisya@kijo.JP

使命

園長 児嶋 草次郎

われ汝らに、模範を示せり、わが為ししごとく、汝らも為さんためなり。

ヨハネ伝13・15

新年、あけまして、おめでとうございます。

戦後80年から新たな一歩を踏み出しています。人類はどこに向かって進んでいくのでしょうか。ロシア・ウクライナ戦争は、もう始まって4年近くになります。太平洋戦争の3年8か月より長くなつたとか。侵略したロシア側が全く妥協しようとしているのを恐ろしく感じます。

日本も江戸時代以前の戦国時代には、親子、兄弟、親戚どうして、国を守ろうとして非情に殺し合つた時期もありますが、殺戮（さつりく）の苦悩の中から導き出した現代の平和であったのではないか。

また時代が逆戻りし、人類滅亡へ向かわないように切に願います。

私たちの仕事は、先人たちの築いた精神文化、生活文化を子供たちに伝承すること。グローバル化の流れに迎合、忖度する政策につぶされないように、しっかりその使命を果たしていきたいと思います。

今年も、御指導・御支援、よろしくお願ひ致します。（以下クリスマス会での園長としての話です。）

クリスマス、おめでとうございます。今年もクリスマスがやってきました。今日は21日（日）ですから、ちょっと早いクリスマスです。24日のクリスマスイブには、中・高生は、みんな石井十次先生のお墓にお参りし、この1年、平和に生活できたことを感謝し、また、新年に向けての決意を大きな声で宣言します。

先ほど、館長のしづく君がこの1年を反省しました。私も、この1週間ほど、1年を振り返りながら、考えをめぐらしてきました。

この1年間を振り返って、友愛園にとってニュースのビッグ3とは何だろう。みんなは、ここで生活する子供として反省するわけだけど、私は、職員として園長として考えてみました。

1 まず、石井記念友愛社は、今年は創立80年であったということを取り上げたいと思います。小学生のみんなは、この前、茶臼原小学校創立80周年の記念事業をやりましたね。実は日本が太平洋戦争に負けて、新しい国としてスタートしてから80年ということでもあり、国レベルでの様々なイベントもありました。この80周年という節目が、石井記念友愛園にとってなぜ大事なのかをまず話します。

日本は江戸時代のまでは、西洋列強に植民地にされてしまうという危機感から、西郷隆盛や坂本龍馬や吉田松陰等が立ち上がり、明治革命を起こしました。そして西欧に追いつけ追いこせの勢いで、殖産興業に努め励みました。社会が大きく変わる時には必ず落ちこぼれる人々が出てきます。

石井十次先生は、自然災害も含めてそのような社会の変動の中ではじき出されてしまった子供たちを救おうとしました。

それからしばらく時がたって、日本がアメリカを始め、ヨーロッパ、そしてアジアの国々を相手に戦争を始め、結局負けてしまいました。戦争末期には日本の主要都市には、原爆を始め無数の爆弾がアメリカ軍によって落とされ、軍人だけではなく、何万、何十万という民間の人々が亡くなってしまいました。

長い長い日本の歴史の中で、これほどダメージを受けた戦争はなかったと思います。まさに国が消えてなくなるような存続の危機を迎えたのです。戦争で親をなくした子供たちが町を放浪するようになりました。このような子供たちを放つておいたら、子供たちは犯罪者になるしかありません。日本社会もどんどん混乱し、争乱状態となってしまいます。実際、歴史を見つめると、社会をコントロールできなくなってしまった国はいっぱいあります。

その時立ち上がったのが児嶋彌一郎先生でした。日本陸軍に徴兵され戦いましたが、アメリカ軍の高鍋上陸に備えている時に戦争が終ったのです。

石井十次先生の作った岡山孤児院の建物や土地がこの茶臼原にある。それを使って、戦災孤児たちを救おうと考えたのです。8月に戦争が終って、10月にはこの茶臼原に来て、救済事業を始めています。

その時使った建物が、現在論語の素読をやっている静養館であり、石井十次の会の事務所になっている方舟館です。児嶋彌一郎先生は、岡山で育っていますので、この茶臼原のこと農業のことなど知りませんでした。そこで助けてくださったのが、この茶臼原に農家として独立している石井十次先生の弟子たちです。

石井十次先生の事業を再開したのは昭和20年です。ちなみに私が生まれたのは、昭和24年です。あの静養館の中で生まれました。実は昭和25年に友愛園に入所されたH・Mさんが、この前の収穫感謝祭の日（11月23日）に来てくださいました。その時小学2年生だったそうです。その後手記を送ってくださいました。その中に、現在事務所になっている旧三友館の建物を建てる時の様子が記されてありました。（昭和27年）。杉の木の皮はぎ作業をしたことが書かれています。私はその頃3歳ですので全く記憶にありません。しかし、現在の三友館を建てる時、元養鶏場に大黒柱になる丸太を数本引きづくりこんで、みんなでやはり皮はぎをしたことを思い出しました（平成8年）。

80年の歴史の中で、多くの子供たちが、それぞれに自分の自立のための基盤を作った場所がここです。つらいこともあったでしょうし、楽しいこともあったと思います。それが切れることなく現在につながっています。学校等とは違って、生活の館ですので、単に懐かしいだけではなく、自分の人生を作っていました生活の一コマ一コマとして記憶の中に整理されているのではないかと思います。私はこの園の中で生まれ育ちましたので、私の魂の拠り所でもあります。卒園生たちにとっても同じだと思います。

この80年の歴史の中で築かれていた思いや文化は、今後、ここで生活する職員や子供たちにも引き継いでいかねばなりません。80年の節目に一度立ち止まって振りかえってみるべきでしょうし、今後も大事にしていかねばなりません。

2、二番目は、この茶臼原の自然の変化です。この数年、地球温暖化の影響ということで、年々夏が暑くなっています。気象庁は、今年の6月～8月の日本の平均気温が1898年の統計開始以降で最も高かったと発表したと新聞が報じています。今年もほんとに暑い夏でした。感覚的に言うならば、春と秋が短くなっています、夏夏夏冬といった感じです。

友愛園にどのような変化をもたらしたか。中・高の女子には分かりますけど、夏場のハウス内の除草や虫取りを放棄しました。こんなに暑くなると、夏場のハウス内の作業は無理です。その代り、露地のナスやピーマン等の手入れにエネルギーを向けることができ、今年は晩秋までしっかり収穫ができました。

心配なのは、野生動物の行動の変化です。鹿やイノシシが日常的に出て来て田畠を荒らすようになって来ています。昔は鹿やイノシシは、山で暮らす人々にとっては、貴重なタンパク源でしたので、盛んに狩猟が行われ、まずこの茶臼原大地でその姿を見ることはませんでした。今年は、イノシシにからいもや米をやられましたし、つい先日、鹿が人参を荒らし逃げていく姿を3頭ほど見ました。人間と野生動物との共生関係が崩れて来ているということだと思います。みんなの耳・目にも入っていると思いますが、東北地方を中心にして、クマが町にまで出没し、あちこちで13人の人が襲われてなくなっています。民家の柿の木によじ登って柿の実を食べている姿がテレビに映し出されたりしましたが、彼らは彼らなりに必死に生きようとしているだけなのだろうと感じました。人間と野生動物たちとが共存し合うために、みんなはどうしたらよいと思いますか。山に実のなる自然林をできるだけ増やしてあげること、それ以外ないと感じます。

米が高騰したという問題もありました。友愛園も米を作っていますので、他人事ではありません。主食である米の値段が2倍以上になるというのは、非常事態であり、安定的な供給について、もっと国は真剣に考えていただきたいと思います。お米は、日本人が日本人であり続けるための命の糧みたいなものですから、そのことを自覚するためにも、友愛園でも今後も作り続けなければならないと思っています。

3、三番目は、人です。日本人としての活躍がまぶしくて、友愛園の子供たちも、将来こうあってほしいと強く願いました。一つは、高市早苗さんが女性で初めて日本の総理大臣になられました。アマテラスオオミカミじゃないけど、いよいよ女性が国家のリーダーとして活躍する時代が日本にもやってきました。頼もしいことです。男尊女卑とする時代が日本の歴史の中で長く続きました。ようやくそういう価値観を乗り越える時期が来ました。友愛園においても労作において女子の活躍が目立ちます。みんなももっともっと高い志を描いてもよいのではないかと思います。

アメリカの大リーグで、ドジャースが大谷・山本・佐々木、三人の日本人選手の活躍でワールドシリーズ優勝を勝ち取りました。大谷翔平選手については、みんなにも何回か話をしました。高校は岩手県の花巻東高校で、3年間寮生活でがんばりました。山本由伸選手は、岡山県出身ですが、宮崎県の都城高校を卒業しています。高校に隣接する寮でやはり3年間修行したのだそうです。170cmで60Kほどで、そんなに大きな体ではありません。夜遅くまで基礎練習に明け暮れたのだそうです。

テレビ等には、大リーグで活躍する姿しか写りませんが、みんなが考えなければならないことは、この人たちが自分たちと同じ年齢の頃は、どのような生活をしていたのだろうということです。大谷選手も山本選手も、将来野球界で活躍し、少年たちに夢を与えたという高い志を持って、人以上の努力を重ねられたわけです。

ノーベル賞に二人の日本人が選ばれたことも、今年のうれしいニュースでした。生理学・医学賞に坂口志文さんが化学賞に北川進さんが受賞されました。これで、30人の日本人が獲得したことになるのだそうです。

注目すべきは、その業績に見合った人間性と言うか人格を身につけられているということ。これは先ほどの大谷選手や山本選手についても言えることです。

ひるがえって、友愛園では、人の活躍という次元で振りかえるとどうであったか。夏の施設対抗バ

レーボール大会で優勝し、12月の駅伝大会でも優勝しました。これらはチームワークの勝利だと思います。みんなで弱い所を補い合って、勝ち取りました。特に駅伝大会の石井記念有隣園とのデッドヒートは感動的でした。どちらが勝ってもおかしくない試合でした。アンカーのそら君（高1）の根性が相手より一枚上でした。ななさん（中3）にしてもみゆさん（高3）にしても、本人たちはまだ自覚していないけども、すごいエネルギーを秘めているように感じます。

また、高鍋高校2年生のしづく君が、11月に選ばれてインドのインド工科大学に1週間ほど短期留学してきました。行ったのは高校から2名だけです。名誉なことですし誇るべきことです。彼の志は将来、学者か大学教授です。名前はいちいちあげませんが、一人ひとり見ていくと、それぞれにすばらしい能力・資質を秘めていると感じることが度々あります。

私は将来、この児童養護施設という小さな世界から、世の中をリードしたり未来を創造したりする人物が出てくると確信しています。みんなに足りないのは、秘めた能力・資質をキチンとコントロールする力です。そして、未来に対する志とそれに見合った生活習慣と人格です。与えられたチャンスを生かせるように、来年も、一歩一歩努力を重ねてください。